

聖泉大学看護学部

看護キャリアアップセンター活動報告

2019 年度

Vol. 8

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

ごあいさつ

聖泉大学看護学部
学部長 木村 知子

日頃は、本学看護学部の教育にご支援をいただきまして誠にありがとうございます。また、看護学部キャリアアップセンターの活動にもご理解、ご協力いただいていることに感謝いたします。

さて、聖泉大学看護学部は開設9年が過ぎ、2020年度は10周年を迎えます。また2015年に開設した大学院看護学研究科においては4期生を輩出することができました。

看護学部開設時より設置されたキャリアアップセンターでは、地域の医療・教育の発展と向上、保健・医療・福祉・教育現場の相互交流を目的とし、看護研究講座、研究のサポート、共同研究、卒業生へのキャリア教育を行っています。

看護研究講座においては、研究初心者を対象としたキャリアアップ講座と、研究の基礎を修得している方を対象としたキャリアジャンプ講座を企画・運営してきました。これまでのキャリアアップ講座の修了者は220名、ジャンプ受講者は69名となりました。修了時アンケートでは、講座の内容、教員のサポートなど高評価をいただいております。キャリアアップ委員会メンバーをはじめとする本学教員の協力の賜物だと自負しております。

また、卒業生へのキャリア教育としては、看護研究や臨床で役立つ研修会を企画してきましたが、昨年度3月の卒業生研修会については、新型コロナウイルス感染対策として、中止とせざるをえなくなりました。しかし、卒業生研修会は内容をさらに充実させていますので、卒業した後も聖泉大学との繋がりを持ち、それぞれの職場で活躍を続けてもらいたいと考えています。

修了生の皆様には、本講座で培った研究能力を発揮しておられることと存じますが、是非、研究を継続、発展させていただきたいと思い、本学教員と共同研究をしたいと願っています。また、研究力をより充実させたいとお考えの方には、本学大学院でさらに能力を磨き、研究の楽しさや喜びを実感していただければと思います。

2020年度のビギナーコース、アドバンスコースは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、今後も県内看護職の方々にとって、親しみやすい、身近に感じられるキャリアアップセンターを目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

目次

ごあいさつ

聖泉大学看護学部長 木村知子

| | |
|------------------------------|----|
| I. キャリアアップ講座の概要 | 1 |
| II. キャリアアップ講座の講義内容および担当講師の紹介 | 7 |
| 1 ビギナーコース（第1回） | |
| 2 ビギナーコース（第2回） | |
| 3 ビギナーコース（第3回） | |
| 4 ビギナーコース 個別研究サポート（第4回） | |
| 5 アドバンスコース | |
| III. キャリアアップ講座に関するアンケート結果 | 16 |
| 1 ビギナーコースについて | |
| 2 アドバンスコースについて | |
| IV. 卒業生研修会について | 27 |
| 1 卒業生研修会の講義内容および担当講師紹介 | |

資料

| | |
|------------------------------|----|
| ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターの概要 | 31 |
| ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程 | 32 |
| ◆ 個人情報の使用に係る承諾について | 34 |
| ◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について | 35 |
| ◆ 共同研究のお誘い | 36 |

あとがき

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター長 流郷千幸

I. キャリアアップ講座の概要

1. ビギナーコースの到達目標

- ①看護計画の書き方・研究倫理について理解できる.
- ②文献検索・文献クリティークの方法が理解できる.
- ③量的研究・基礎統計について理解できる.
- ④質問紙調査の方法・Excel を活用したデータ処理について理解できる.
- ⑤学会発表の方法について理解できる.

2. アドバンスコースの到達目標

SPSS を活用したデータ処理の方法が理解できる.

3. 開催日：ビギナーコース

令和1 (2019) 年 5 月 24 日 (金)
 6 月 24 日 (月)
 7 月 22 日 (月)
 8 月 29 日 (木)

アドバンスコース

令和1 (2019) 年 8 月 30 日 (金)

4. 場 所：聖泉大学学内

5. 対 象：主に滋賀県下の保健・医療・福祉・教育機関に在職する者

6. プログラム：ビギナーコース, アドバンスコース

| ビギナーコース(第1回) | ビギナーコース(第2回) | ビギナーコース(第3回) | ビギナーコース(第4回) | アドバンスコース (特別講座) |
|---|--|--|--|--|
| 5月24日 (金) | 6月24日 (月) | 7月22日 (月) | 8月29日 (木) | 8月30日 (金) |
| <研究の方法と進め方> 講師：西山 ゆかり 10：00～11：00 (60分) | <質的研究> <面接調査の方法> 講師：平田 美紀 10：00～11：30 (90分) | <量的研究> <基礎統計について> 講師：井之口 文月 10：00～11：00 (60分) | <学会発表の方法 口演・示説> 講師：森本 喜代美 10：00～11：30 (90分) | <統計解析の基礎> 講師：鈴木 美佐 10：00～11：30 (90分) |
| <研究計画書の書き方> <研究倫理について> 講師：中島 真由美 11：10～12：10 (60分) | <分析方法について> 講師：平田 美紀 12：30～13：30 (60分) | <質問紙調査の方法> 講師：川嶋 元子 11：10～12：00 (50分) | <個別研究相談> 担当：看護学部教員 12：30～14：30 (120分) | <統計解析の演習> 講師：鈴木 美佐 12：30～14：00 (90分) |
| <文献検索の方法> 講師：桶河 華代 13：30～14：30 (60分) | <分析方法について> 講師：平田 美紀 13：40～15：40 (120分) | <Excelを活用した データ処理> 講師：川嶋 元子 13：00～14：20 (80分) | | <SPSSを学ぼう> 講師：鈴木 美佐 14：10～15：40 (90分) |
| <文献クリティーク> 講師：桶河 華代 14：40～15：40 (60分) | | <Excelを活用した データ処理> 講師：川嶋 元子 14：30～15：40 (70分) | | |

※講座参加者には、講座風景写真、及び終了後アンケート調査結果等、個人情報に係る内容について、文章を用いて説明し、使用の承諾を得た。

2. キャリアアップ講座の実際 (2019年度)

○キャリアアップ講座ビギナーコース (第1回)

5月24日(金)に「キャリアアップ講座ビギナーコース(第1回)」を開講しました。開講式に続いて午前中は「研究の方法と進め方」「研究計画の書き方」「研究倫理について」の講義、午後からはコンピューター室にて「文献検索の方法」「文献クリティーク」の講義と演習を行いました。

受講生からは、今後研究に取り組む意欲向上につながった、文献検索はパソコンを使った説明だったのでわかりやすかった、などの声をいただきました。



○キャリアアップ講座ビギナーコース（第2回）

6月24日（月）に「キャリアアップ講座ビギナーコース（第2回）」を開講しました。第2回の内容は、「質的研究」の面接調査の方法、分析方法でした。午前中は質的研究の基礎知識や手法の講義の後、受講生同士の模擬インタビューを行いました。午後からは分析方法の講義を受け、グループで模擬データを分析する演習を行いました。

受講生からは、研究の間によって分析方法や内容が異なることが理解できた、インタビューや質的データの分析は難しいが、データを丁寧に読み取ることや研究者の主観に偏らない分析の重要性が理解できた、などの声をいただきました。



○キャリアアップ講座ビギナーコース（第3回）

7月22日（月）に「キャリアアップ講座ビギナーコース（第3回）」を開講しました。

量的研究について学ぶ1日となりました。午前は、「基礎統計について」「質問紙調査の方法」の講義を受け、グループで質問紙を作成しました。午後からの「Excelを活用したデータ処理」では、受講生同士で行った質問紙調査の結果を入力し、実際のデータを操作して、記述統計を出し、グラフへの変換も行いました。

受講生からは、統計の難しさを感じながらも、Excelを使った分析は今後使っていきたい、多数の先生のサポートが充実していてよかった、との声が聞かれました。



○キャリアアップ講座ビギナーコース（第4回）

8月29日（木）に「キャリアアップ講座ビギナーコース（第4回）」を開講しました。

午前中にコンピューター室で「学会発表の方法 講演・示説」の講義を受け、実際にパワーポイントを使用してポスターを作成する演習を行いました。午後は本講座のまとめとなるグループ演習を行いました。事前に受講生が作成した研究計画書をもとに、研究の進め方についてディスカッションを行いました。

また、今回はビギナーコース最終回ということで、講座終了後に閉講式と受講生全員で写真撮影を行いました。

受講生からは、学会発表の方法では、相手にわかりやすく伝えるにはどうすればよいか考えなくてはならないことが解った、個別相談では、自分たちが困っている所を一緒に考えていただけて良かった、自分たちがしている研究について細かく相談でき、新たな視点が得られたので実践していきたい、などの声が聞かれました。



○キャリアアップ講座アドバンスコース開催

8月30日（金）に「キャリアアップ講座アドバンスコース」が開催されました。

昨年または今年ビギナーコースを受講された方、もしくはパソコン操作（エクセル）をある程度習熟された方を対象にした本講座に、今年度は10名の参加がありました。

実際にパソコンを使いながら、午前中は「統計解析の基礎」の講義を受け、午後は「統計解析の演習」「SPSSを学ぼう」の演習で、実際にSPSSソフトを使った検定の方法や、分析結果の解釈について学びました。

受講生からは、難しい内容ですがとてもわかりやすく大満足でした、看護研究で分析をしていく時にどの検定を使えばよいか、結果をどう示したらよいかを考える方法が学べた、などの声が聞かれました。



II. キャリアアップ講座の講義内容および 担当講師の紹介

1. ビギナーコース（第1回）1時限目

| | | | |
|-------|-------------------------|-----|----------------|
| 講義テーマ | 研究の方法と進め方 | 担 当 | 西山 ゆかり |
| 日 時 | 令和元年5月24日（金）10：00～11：00 | 場 所 | 地域・精神・在宅看護学実習室 |

1) 講義の概要

看護研究を実践するにあたり、研究のプロセスを理解する。さらに自らが実践している看護ケアの中で起こっている現象から、研究疑問を見つけ出す方法を学ぶ。

2) 講義の到達目標

- ①日々、実践している看護の現象から研究疑問を見つけることができる。
- ②研究疑問から研究プロセスが理解できる。
- ③研究テーマの絞り込み方法を理解し、自らの研究課題を見出すことができる。

3) 講義内容

1. 研究とは「よく調べ考え真理をきわめること」
2. 研究の定義
3. 研究・文献検索を始める前にすること：研究のねた探し
4. 研究のプロセス
5. リサーチクエッションを見つけよう！
6. 実際の臨床看護研究の紹介

参考文献

- 坂下玲子：看護研究，医学書院，2017.
- 前田樹海：はじめての看護研究，ナツメ社，2018.
- 横山美江：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第2版，医歯薬出版，2011.
- Polit, D. F. & Beck, C. T. /近藤潤子監訳：看護研究第2版，pp 3-61. 2010.
- 李節子：看護研究のこころえ帳，医歯薬出版，2010.
- 黒田裕子：看護研究 step by step 第4版，医学書院，2012.

【講師】西山 ゆかり（基礎看護学）

専門は基礎看護学で『看護における補完代替医療／療法』『看護教育責任者・担当者の教育プログラム開発』『看護師の職業自我の発達過程』に関する研究に取り組んでいる。

ビギナーコース（第1回）2時限目

| | | | |
|-------|-------------------------|-----|----------------|
| 講義テーマ | 研究計画書の書き方 研究倫理について | 担 当 | 中島 真由美 |
| 日 時 | 令和元年5月24日（金）11:10～12:10 | 場 所 | 地域・精神・在宅看護学実習室 |

1) 講義の概要

研究計画書の書き方について、研究計画書の構成要素に沿い例題を用いながら学習する。また、研究計画を進めていくにあたり、必要となる倫理的配慮について学ぶ。

2) 講義の到達目標

- ①研究計画書の書き方を理解する。
- ②研究における倫理的配慮を理解する。

3) 講義内容

1. 研究計画書の書き方

- 1) 研究計画書とは
- 2) 研究計画書に記載すべき内容とは
- 3) 研究計画書の書き方の実際
- 4) 研究の添付資料

2. 研究倫理について

- 1) 研究倫理とは
- 2) 研究倫理として考えておくべき内容

参考文献

- 坂下玲子：系統別看護学講座 別巻 看護研究，248-264，医学書院，2016。
- 南裕子，野島佐由美：看護における研究，第2版，120-134，日本看護協会出版会，2017。
- 黒田裕子：黒田裕子の看護研究 step by step，第5版，医学書院，2017。
- 早川和生：JJN スペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方，114，医学書院，2012。
- 舟島なをみ：研究指導方法論，254-273，医学書院，2015。

【講師】中島 真由美（成人看護学）

専門は成人看護学で『慢性疼痛・疼痛緩和』に関する研究に取り組んでいる。

ビギナーコース（第1回）3・4時限目

| | | | |
|-------|-------------------------|----|-----------|
| 講義テーマ | 文献検索の方法 文献クリティーク | 担当 | 桶河 華代 |
| 日時 | 令和元年5月24日（金）13：30～15：40 | 場所 | 第4コンピュータ室 |

1) 講義の概要

研究論文から研究方法の種類・手順・内容を確認後、クリティーク「評価、検討、判断」の手順を学び、先行研究レビューの目的（意義）と方法について学習する。

2) 講義の到達目標

- ①研究論文から研究の方法の種類・手順・内容について理解する。
- ②文献クリティークの方法について理解する。
- ③演習を行うことにより、文献クリティークが理解できる。

3) 講義内容

1. 文献検索の方法

- 1) 文献検索の目的
- 2) 文献の種類・データベース
- 3) 文献検索の方法・実際
- 4) 文献リストの作成

2. 文献クリティーク

- 1) クリティークの意義
- 2) 論文の構成
- 3) 論文クリティークのプロセスとクリティカル・シンキングの要素
- 4) クリティークの実際

参考文献

- 黒田裕子：「黒田裕子の看護研究 step by step 第4版」，医学書院，2012.
- 大木秀一：「文献レビューの基本」，医歯薬出版株式会社，2013.
- 山川みやえ・牧本清子：「よくわかる看護研究論文のクリティーク」，日本看護出版会，2014.
- 安部陽子訳：「看護研究のための文献レビュー」，医学書院，2012.

【講師】桶河 華代（在宅看護学）

専門は在宅看護学で『在宅看取り』に関する研究に取り組んでいる。

2. ビギナーコース（第2回）1～4時限目

| | | | |
|-------|---|-----|----------------|
| 講義テーマ | 質的研究・面接調査の方法 分析方法について | 担 当 | 平田 美紀 |
| 日 時 | 令和元年6月24日（月） 10：00～11：30（質的研究・面接調査） 12：30～15：40（分析方法について） | 場 所 | 地域・在宅・精神看護学実習室 |

1) 講義の概要

質的研究の方法について学ぶことを目的とした講義である。質的研究方法の概要、面接調査の方法について講義を受けた後に演習にて例題の逐語録のデータを分析し、コード化・カテゴリー化の方法について理解することができる。

2) 講義の到達目標

- ①質的研究・面接調査の方法について理解できる。
- ②データ分析の演習を行うことにより、逐語録をコード化、分析することができる。

3) 講義内容

1. 質的研究の進め方

- 1) 質的研究とは
- 2) 質的研究の方法
- 3) インタビューの種類とインタビューガイドについて
- 4) 参加観察法の種類と方法について
- 5) 質的研究における倫理的配慮について

2. インタビューを行ってみよう【演習】

- 1) インタビューガイドを作成する
- 2) インタビューを体験する

3. データ分析

- 1) 逐語録をコード化する
- 2) コード化したデータを分析し、サブカテゴリ、カテゴリ化する

4. 質的分析を行ってみよう【演習】

- 1) 逐語録からコードを抽出する
- 2) サブカテゴリ、カテゴリを生成する過程を体験する

参考文献

- 坂下玲子：看護研究，医学書院，2017。
谷津裕子：Start Up 質的看護研究第2版，学研，2015。
グレッグ美鈴：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方第2版，医歯薬出版株式会社，2016。
井下理（監）：グループ・インタビューの技法，慶応義塾大学出版会，2012。
萱間真美：質的研究のピットフォール，医学書院，2013。

【講師】平田 美紀（小児看護学）

専門は小児看護学で『検査・処置を受ける乳幼児と母親への支援』に関する研究に取り組んでいる。

3. ビギナーコース（第3回）1時限目

| | | | |
|-------|-------------------------|-----|----------------|
| 講義テーマ | 量的研究 基礎統計について | 担 当 | 井之口 文月 |
| 日 時 | 令和元年7月22日（月）10：00～11：00 | 場 所 | 地域・精神・在宅看護学実習室 |

1) 講義の概要

量的研究の定義・意義・プロセスについて学び、基礎統計についての基本を学ぶ。

2) 講義の到達目標

- ①量的研究の定義・意義・プロセスについて理解する。
- ②基礎統計について理解する。

3) 講義内容

1. 量的研究とは
2. 量的研究のプロセス
 - 1) 対象の選定
 - 2) 標本の抽出
 - 3) 無作為化の重要性
3. 基礎統計について
 - 1) 計画段階
 - 2) データ集計
 - 3) 基礎統計

参考文献

- 藤林和俊：看護研究をはじめのための統計と臨床疫学，学研メディカル秀潤社，2013.
中村好一：やさしい統計学入門，診断と治療社，2009.
市原清志：バイオサイエンスの統計学，南江堂，1990.

【講師】 井之口 文月（基礎看護学）

専門は基礎看護学で『「人体の構造と機能」の教育方法』『体位が味覚認知に及ぼす影響』に関する研究に取り組んでいる。

ビギナーコース（第3回）2・3・4時限目

| | | | |
|-------|--|-----|-----------|
| 講義テーマ | 質問紙調査の方法 Excel を活用したデータ処理 | 担 当 | 川嶋 元子 |
| 日 時 | 令和元年7月22日（月） 11:10～12:00（質問紙調査の方法） 13:00～15:40（Excel を活用したデータ処理） | 場 所 | 第4コンピュータ室 |

1) 講義の概要

質問紙調査の方法と、研究を進める上で必要なデータ処理に関するスキルを身につけることを目的とした講義である。具体的には、Excel を用いてデータを入力し、表計算の方法や記述統計について、実際に行った質問紙調査のデータを用いて演習を行う。

2) 講義の到達目標

- ①質問紙調査の方法について理解し、実際に質問紙を作成することができる。
- ②作成した質問紙調査のデータを、Excel を活用し、データを処理することができる。

3) 講義内容

1. 質問紙調査の方法

- 1) 質問紙調査の長所・短所
- 2) 質問紙調査の具体的方法・構成
- 3) 操作的定義
- 4) 質問項目の設定・留意点・尺度について
- 6) 倫理的配慮について

2. Excel を活用したデータ処理【演習】

- 1) 質問紙のデータのを入力をする
- 2) データ処理をする
- 3) 記述統計（単純集計）
- 4) 集計表を作成する

参考文献

- 土屋雅子：看護・医療系スタッフのための質問紙作成ワークブック，診断と治療社，2014.
- 土屋雅子：看護・医療系研究のためのアンケート・面接調査ガイドー初心者にもできる質問紙・インタビューガイドの作り方，診断と治療社，2013.
- 石井京子：ナースのための質問紙調査とデータ分析，医学書院，2009.
- 坂下玲子：系統看護学講座別巻看護研究，医学書院，2017.
- 目黒正俊：よくわかる Microsoft Excel 2010 基礎，富士通 FOM，2013.
- 田久浩志：医療者のための Excel 入門 超・基礎から医療データ分析まで，医学書院，2016.

【講師】川嶋 元子（在宅看護学）

専門は在宅看護学で『外来看護における在宅療養支援』に関する研究に取り組んでいる。

4. ビギナーコース（第4回）1・2時限目

| | | | |
|-------|-------------------------|----|-----------|
| 講義テーマ | 学会発表の方法 口演・示説 | 担当 | 森本 喜代美 |
| 日時 | 令和元年8月29日（木）10：00～11：30 | 場所 | 第4コンピュータ室 |

1) 講義の概要

学会発表の意義と方法について学ぶ。また、スライド・ポスターの作成、学会発表の方法や諸注意事項について学習する。

2) 講義の到達目標

- ①学会発表の口演・示説について理解できる。
- ②学会発表のための効果的なPower Pointを使用した資料の作り方を理解できる。

3) 講義内容

1. 学会発表について

- 1) 学会発表までのプロセス
- 2) 演題登録
- 3) 抄録作成
- 4) 発表準備

2. パワーポイントを使つてのスライド作成について

- 1) スライド作成の原理原則
- 2) 3つの技術

3. スライド・ポスターの作成【演習】

- 1) 実際にスライドを作成しよう
- 2) 実際にポスターを作成しよう

4. 学会発表について

- 1) 口頭発表・示説発表について
- 2) 発表時の注意点について

参考文献

- 小笠原知枝，松木光子：これからの看護研究-基礎と応用-第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2015。
前田樹海：研究発表のプレゼンもっとよくなります！，日本看護協会出版会，2014。
宮野公樹：学生・研究者のためのPower Pointスライドデザイン：化学同人，2018。
及川慶浩：改訂第2版 初めてのでも安心！ナースのための研究発表のツボ 211-プレゼンテーションがうまくいく一，メディカ出版，2011。
及川慶浩：思わずみんなが目をとめる研究発表ポスターセッション，メディカ出版，2010。
松本直子，操華子：臨床看護研究の道しるべ，日本看護協会出版会，東京斎藤裕之・佐藤健一：JNNスペシャル 医療者のための伝わるプレゼンテーション，医学書院，2010。

【講師】森本 喜代美（老年看護学）

専門は老年看護学で『在宅看取り・小児在宅ケア』に関する研究に取り組んでいる。

ビギナーコース 個別研究サポート（第4回）3・4時限目

| | | | |
|-------|-------------------------|----|-------------------------------|
| 講義テーマ | 個別研究相談 | 担当 | 看護学部教員 |
| 日時 | 令和元年8月29日（木）12:30～14:30 | 場所 | 地域・精神・在宅看護学実習室 母性・小児看護学実習室 |

1) 研究相談の概要

看護教員19人が、相談者39人の希望する領域や研究テーマに合わせて個別に対応した。研究テーマを持つ相談者が多く、テーマを持たない相談者は、他の受講生の相談と一緒に聴講するかたちであった。抄録や研究計画書を持参する受講生も多く、具体的な内容の指導となった。発表の予定は院内（施設内）・施設外が20件、予定なしが7件、不明が数件であった。

2) 研究相談内容

- ①研究の問いをどのように絞り込めば良いか、研究の目的は何かを明確にする。
- ②研究方法について（i:データ収集方法について、ii:分析方法について）
- ③文献検討の必要性について
- ④倫理的配慮、倫理審査について

5. アドバンスコース 1～4時限目

| | | | |
|-------|---|----|-----------|
| 講義テーマ | 統計解析の基礎・演習 | 担当 | 鈴木 美佐 |
| 日時 | 令和元年8月30日(金) 10:00～11:30(統計解析の基礎) 12:30～14:00(統計解析の演習) 14:10～15:40(SPSSを学ぼう) | 場所 | 第4コンピュータ室 |

1) 講義の概要

看護研究に取り組む中で、Excelによるデータ処理・基礎統計に加え、さらに本格的に分析方法について学ぶことを目的とした講義である。

2) 講義の到達目標

- ①統計解析の基礎を理解できる。
- ②SPSSの操作を理解できる。

3) 講義内容

1. 統計解析の基礎

- 1) 統計、統計解析とは、なぜ統計・統計解析が必要なのか。
- 2) 統計データの整理法(度数分布、ヒストグラム)
- 3) データの傾向・性質・特徴を知る(平均、中央値、最頻値、分散、標準偏差)
- 4) 変数(従属変数、独立変数)、量的データと質的データ、尺度
- 5) 仮説を立てる(統計学的仮説検定、帰無仮説、対立仮説)
- 6) 検定とは(帰無仮説、有意確率、p値、有意水準、t検定、 χ^2 検定)

2. 統計解析の演習

3. SPSSを学ぼう

- 1) SPSSの基本操作
- 2) 変数ビュー、新しい変数を作る。
- 3) 記述統計、 χ^2 検定、t検定

参考文献

- 石村貞夫：SPSSでやさしく学ぶアンケート処理 第4版，東京図書，2015。
 石村貞夫：よくわかる統計学 看護医療データ編 第2版，東京図書，2015。
 出村慎一：健康・スポーツ科学のためのSPSSによる統計解析入門，杏林書院，2007。
 今野紀雄：図解雑学 統計，ナツメ社，1999。
 米川和夫：超初心者向けSPSS統計解析マニュアル，北大路書房，2010。
 竹原貞真：SPSSのスズメ 1，北大路書房，2013。
 山蔭道明監修：看護研究これで安心！うまくいく！超入門らくらく使えるはじめての統計学，メディカ出版，2008。

【講師】鈴木 美佐 (小児看護学)

専門は小児看護学で『食物アレルギーをもつ小児と家族のQOL』『採血を受ける小児のプレパレーション』に関する研究に取り組んでいる。

Ⅲ. キャリアアップ講座に関するアンケート結果

1. ビギナーコースについて

受講者の自己評価アンケートは、第1回～第4回講座において実施した。

1) 第1回～第3回の講座

ここでは、第1回～第4回講座後のアンケート結果をまとめた。

今年度は、登録者数は25人（大学院院生含まず）であった。アンケートの回収数は第1回23人（回収率100%、有効回答率100%）、第2回24人（回収率95.8%、有効回答率100%）、第3回23人（回収率98%、有効回答率100%）、第4回21人（回収率95.5%、有効回答率100%）であった。それぞれの質問項目に対し、そう思わない1点～そう思う5点の5件法で回答を求めた。

(1) 基本属性

年齢層は30～40歳代が約7割を占めており、平均経験年数は14.5±9.0年と看護の経験を積み重ねた熟練看護師がほとんどであった。また職種は、看護師・保健師であった（表1）。

表1 ビギナーコース受講者の属性 n=23

| 個人の属性 | 人数 | 割合(%) |
|--------|----|-------|
| 性別 | | |
| 男性 | 4 | 17.4 |
| 女性 | 18 | 78.3 |
| 年齢 | | |
| 20歳代 | 4 | 17.4 |
| 30歳代 | 8 | 34.8 |
| 40歳代 | 7 | 30.4 |
| 50歳代以上 | 4 | 17.4 |
| 職種 | | |
| 看護師 | 21 | 91.3 |
| 保健師 | 1 | 4.3 |
| 助産師 | 1 | 4.3 |
| その他 | 0 | 0 |
| 勤務先 | | |
| 病院 | 21 | 91.3 |
| 老人保健施設 | 1 | 4.3 |
| 保健所 | 1 | 4.3 |
| その他 | 0 | 0 |

2) 各講座の内容に関する項目

(1) 第1回講座のアンケート結果

第1回の講座は、「研究の方法と進め方」「研究計画書の書き方」「文献検索の方法」に関する内容であり、研究の方法と進め方と文献検索の方法についてはほぼ全員が理解できたと回答していた（表2）。文献検索とクリティークの講座では、パソコン室で実際に自分の興味のある文献を検索するなど、本学キャリアアップ講座において演習を通してクリティークが体験できる機会であり、今後継続して論文に触れる動機づけになった。

表2 第1回講座 アンケート結果

| | | n=23 | | |
|-----------|--------|------|---|------|
| 講義内容 | 質問項目 | Mean | ± | S.D |
| 研究の方法と進め方 | 内容の理解 | 4.52 | ± | 0.51 |
| | 満足度 | 4.65 | ± | 0.49 |
| | 資料が適切か | 4.65 | ± | 0.49 |
| 研究計画書の書き方 | 内容の理解 | 4.13 | ± | 0.69 |
| | 満足度 | 4.17 | ± | 0.72 |
| | 資料が適切か | 4.13 | ± | 0.76 |
| 研究倫理 | 内容の理解 | 4.17 | ± | 0.58 |
| | 満足度 | 4.17 | ± | 0.72 |
| | 資料が適切か | 4.17 | ± | 0.58 |
| 文献検索の方法 | 内容の理解 | 4.43 | ± | 0.51 |
| | 満足度 | 4.57 | ± | 0.51 |
| | 資料が適切か | 4.43 | ± | 0.51 |
| 文献クリティーク | 内容の理解 | 4.00 | ± | 0.74 |
| | 満足度 | 4.35 | ± | 0.57 |
| | 資料が適切か | 4.30 | ± | 0.76 |

表3 第1回講座の感想・意見

1. 学び

- ・受講前は看護研究と聞くとプレッシャーだったけれど、今は興味が少しずつ出てきた。
- ・大変判りやすく、今後研究に取り組む意欲向上につながった。
- ・研究は楽しさにつながるものなんだと気づかせてもらえた。
- ・今決まっているテーマが莫大すぎることに気づいた。
- ・学生の時に学んだ文献検索や保存方法は忘れかけていたところもあったので思い出すことができた。
- ・文献検索は久しぶりに行ってみたい思い出すことができたが、クリティークはやはり難しいと感じた。
- ・文献検索の方法についていろんな検索のしぼり方を知ることが出来、学びになった。
- ・今、研究計画書を書いているので、方法の進め方、計画書の書き方の流れや注意事項など具体的にわかりやすかった。

2. その他（感想）

- ・研究計画書を書きだそうとしているところなので、本日の講義を是非活用したい。
- ・文献検索について、パソコンを使っての説明だったのでわかりやすかった。
- ・検索が数件しか出てこず、リスト作りが十分にできなかった。年代のリストの見方がわからなかった。
- ・丁寧な説明、サポートがあり、より理解が深まった。

(2) 第2回講座のアンケート結果

第2回の講座は、質的研究の「面接調査の方法」「分析方法」に関する内容であり、どちらの講義も満足度は「そう思う」「ややそう思う」を合わせて100%であった。内容の理解も85%を超えていた(表4)。

第2回の講座では、質的研究の概要や面接方法の講義を受けた後に、例題を用いた分析演習を個人演習と、グループで体験する内容であった。

表4 第2回講座 アンケート結果 n=24

| 講義内容 | 質問項目 | Mean | ± | S.D |
|---------------|--------|------|---|------|
| 質的研究 面接調査の方法 | 内容の理解 | 4.08 | ± | 0.41 |
| | 満足度 | 4.38 | ± | 0.49 |
| | 資料が適切か | 4.29 | ± | 0.55 |
| 質的研究 分析方法について | 内容の理解 | 4.17 | ± | 0.64 |
| | 満足度 | 4.38 | ± | 0.49 |
| | 資料が適切か | 4.29 | ± | 0.55 |

表5 第2回講座の感想・意見

1. 学び

1) 面接調査について

- ・面接調査はインタビューに慣れていないので難しかった。研究参加者の考えや体験を引き出すために聞く力が必要だと思った。
- ・インタビューガイド作成の大切さがわかった。

2) 分析方法について

- ・カテゴリー化した後、どう文章にまとめるか興味が沸いた。
- ・言葉を分析してカテゴリー化することが難しく、人によって結果が違ってくるのだと思った。
- ・多くの事例からコードを出してきて、何回も見直すこと、自分の思いを入れられないことなど念頭に置いて、今後実施することがあれば気を付けていきたい。
- ・はじめて質的研究の意義を理解することができた。
- ・自分の思いに引っ張られずに他者と評価することの意味を知れた。
- ・質的データの扱いは、主観に影響されやすいため、客観的に扱っていくのはとても難しいと思った。
- ・質的研究はデータを読みとる力が必要であることや、カテゴリーの抽出に時間をかけなくてはならないと感じた。
- ・グループワークでは、人それぞれ違うとらえ方があり、なるほどと思うことが多々あった。
- ・分析の仕方や、リサーチクエスションに戻って考えていくことが大切だと分かった。

2. その他・感想

- ・インタビューの仕方など、普段は行わないことが体験できて良かった。
- ・実際作業しながらだったので、イメージしやすかった。
- ・今回生データから目的のものをコード化することを実際に行ってみて、元々抽出する作業は苦手だけれどやっぱり難しいなと認識した。
- ・とても分かりやすかったし質的研究をやってみたいと思うようになった。
- ・“失敗に終わった看護”を取り上げられたこと、面白かったし、学びになった。
- ・講師の先生が回ってくださることで分かりやすく質問しやすかった。

(3) 第3回講座のアンケート結果

第3回の講座は、「量的研究・基礎統計」「質問紙調査の方法」「Excelを活用したデータ処理」に関する内容であり、質問紙調査の方法については、内容の理解、満足度、資料の適切さ全てで「そう思う」「ややそう思う」を合わせると100%となっていた（表6）。

第3回講座は、量的研究における基本である基礎統計を学び、研究を進めるうえで必要な質問紙調査の作成や、質問紙への回答後に行うデータ処理という、実際に行う研究の流れを体験する内容であった（表7）。

表6 第3回講座 アンケート結果

| | | n=23 | | |
|---------------------|--------|------|---|------|
| 講義内容 | 質問項目 | Mean | ± | S.D |
| 量的研究 基礎統計 | 内容の理解 | 4.00 | ± | 0.82 |
| | 満足度 | 4.20 | ± | 0.94 |
| | 資料が適切か | 4.30 | ± | 0.65 |
| 質問紙調査の方法 | 内容の理解 | 4.30 | ± | 0.47 |
| | 満足度 | 4.30 | ± | 0.49 |
| | 資料が適切か | 4.60 | ± | 0.51 |
| Excelを活用した データ処理 | 内容の理解 | 4.00 | ± | 0.50 |
| | 満足度 | 4.30 | ± | 0.50 |
| | 資料が適切か | 4.10 | ± | 0.50 |

表7 第3回講座の感想・意見

1. 学び

1) 量的研究について

- ・量的研究について、再度資料を見直して、自分たちの研究の分析方法が何かを調べることができた。
- ・聞いたことのない単語がたくさんあり、理解するのが難しかった。質的・量的データを分けるのが難しかった。

2) 質問紙について

- ・自分たちが考えた質問紙をデータ化することで、質問紙作成時の注意事項がよくわかった。
- ・質問紙を作るグループがいろいろな意見を聞いて良かった。
- ・質問紙では何気なく考えて記載していたけど物の言い周しとか答え方が曖昧なものなど、対象が適切に答えられて、かつ、こちらの欲しい情報内容や統計が取りやすいように考えなければならぬと思った。

2) データ処理について

- ・Excelは使用したことがなく、実際使用してみているいろいろ活用できることがわかり、使用してみようかと思う。
- ・Excelの機能には知らないことがたくさんあって楽しかった。
- ・Excelの使い方が少しわかった。

2. その他

1) 感想等（設備・スタッフについて）

- ・多数の先生方のサポートが充実していて、PC・Excelに取り込めてよかった。
- ・Excelを実際に触れてよかった。

- ・習得度合いなど個人差があるので、スタッフの先生がもう少し多いとよいと思う。
- ・フォローの先生がいらっしゃったので、何とかできた。
- ・くり返しPCの利用方法を説明して下さって分かりやすかった。
- ・パソコンが苦手な研修についていけるか不安でしたが、丁寧に教えて頂けてわかりやすかった。

2) 要望や課題

- ・量的研究なので Excel の検定についても教えてほしかった。
- ・ふり返りの為に資料が、スクリーンショットなどでもう少し見やすいとよかった。
- ・アンケート作成の内容を十分に考え切れなかったため、もう少し時間を確保してほしい。
- ・Excel のデータ処理のとき、先生のデータ（例題）と自分のやるべきデータ入力が違うので、理解するのが難しかった。

3) 受講生の力量

- ・基礎統計は、難しく理解できなかった。
- ・1回聴いただけでは理解できなかったため復習が必要だと思った。
- ・統計学が難しく感じた。まだまだ勉強不足だと思った。
- ・データ処理については、もう少し自己学習が必要であると思った。

2. その他（感想）

- ・Excel が苦手なので、どんどん進んでいく感じがした。
- ・データ処理について自分の計算が合っているのか不安になるので、他者に見てもらいたいのは大事だと思った。
- ・データ処理は使用していかないとすぐに忘れてしまうと思うので、自宅でも復習していきたい。
- ・Excel を使った分析は今後使っていきたい。
- ・便利な機能があるが、使いこなせるにはまだまだだと思う。
- ・Excel では先生と一緒に Data 処理をしたらできそうだけど時間がたったら忘れてしまいそうなので自己学習しておきたい。

(4) 第4回講座のアンケート結果

第4回の講座は、「学会発表の方法（口演・示説）」に関する内容と、「個別研究相談」であり、学会発表（口演・示説）については、95%が理解したと回答していた。個別研究相談では、100%の受講者が講師の助言が役に立ったと回答していた。また、99%の受講者が継続的にサポートを受けたいと希望していた（表8）。

学会発表の方法は、第2回講座の量的研究と第3回講座の質的研究の成果を発表するための講義と演習という内容であり、個別研究相談では、受講生全員が研究計画書や研究の構想を事前提出もしくは当日に持参し、その内容をもとにグループごとに各領域の教員から、研究の進め方についての具体的な講義を受けた。

表8 第4回講座 アンケート結果
n=21

| 質問項目 | Mean | ± | S.D |
|----------|------|---|------|
| 内容が有用である | 4.20 | ± | 6.21 |
| 満足度 | 4.20 | ± | 5.71 |

表9 第4回講座の感想・意見

1. 学び

1) 学会発表の方法（口演・示説）について

- ・パワーポイント一つとっても、相手にわかりやすく伝えるにはどうすればよいか考えなくてはならないことが解った。
- ・学会発表については、準備の部分は詳しくわかった。

2) 個別研究相談について

- ・個別相談では自分たちだけの主観的な考えだけで研究計画立案していることが解り、新たなアドバイスをいただいて勉強になった。
- ・個別相談では、データ分析について悩んでいたもので、今回のアドバイスで分析を進めていきたい
- ・個別相談は自分たちが困っている所と一緒に考えていただけて、「なるほど」と思うことの気づきをもたらえた。
- ・(教員による) 他の人への助言からたくさん学ぶことができた。
- ・自分たちがしている研究について細かく相談でき、新たな視点が得られたので実践していきたい
- ・自身の問題点を明確にしてもらい、本当にありがたかった。
- ・個別相談でさらに研究をしっかりと進めていけそうな気がした。

2. その他（感想）

- ・苦手なのでパワーポイントの作り方をもっと教えて欲しかった。
- ・学会で発表する際にポイントとなる点についてもう少し詳しく聞きたかった。
- ・研究計画書を再度持ち帰って練り直し、実践していきたい。
- ・研究計画書について大変わかりやすく個別に指導して頂いた。
- ・個別指導は、院内で専門的に指導を受けることが出来ないもので、継続的にサポートを受けたい。

個別研究相談に対する看護教員の指導内容について、相談に対応した各領域の教員から指導内容について、以下の報告があった（表 10）。

表 10 個別研究相談に対する看護教員の指導内容

グループ 1

- ・研究方法を量的か質的か再考してみることに、質問紙調査なら前後比較で行うことの提案を行った。
- ・文献検討により、現在どこまでが明らかになっているかを明確にすること、これまで多く研究されている尺度についても検討する。
- ・研究目的を再度検討し、対象者の基準を決めて絞り込む必要性や、介入研究を行うには先行研究を見直し、研究手順を明確にする（実施者のばらつきをなくす）こと、倫理的配慮、安全性の担保、評価基準の明確化が重要である。

グループ 2

- ・昨年度の研究を継続されており、現在進行中とのことで、条件設定や対象の群の特徴を見出し、今後の対策に継続していくことを提案した。
- ・倫理審査に既に提出済とのことで、今後の内容検討についてアドバイスを行った。
- ・研究目的については表現方法の整理と研究の意義を記載すること、研究の背景は先行研究を参考にもっと整理すること、アクションリサーチという方法を整理し、アンケートやグループディスカッションも検討することを提案した。

グループ 3

- ・研究内容としては、何例も調査するのではなく 1 例をまとめ、その効果を丁寧に分析・評価したのちにその他の事例をまとめていくのが良いのではないかと。
- ・まずは研究者全員で認知症ケアの現状とどのようなケアを目指すのかを共有し、出てきたことを分析、その後現状と理想のギャップを埋めるためにどうするかを検討していくこと、研究デザインをしっかりと作り作ることが重要である。
- ・これまであった例をまずは個々に条件・状況などをまとめ、共通すること、共通しないことが見え、仮説が出てくると思われる。そこから、同じようなケースに対して後追いではなく、前もって考えて調査に取り組むことが大切である。

グループ 4

- ・質問紙の整理を行うことがアンケート調査のポイントとなる。倫理的配慮として回収ボックスの設置が必要である。
- ・アンケートの職種の記載について、本来は対象の資格を絞って行うべき調査だが、対象が限られてきてしまうため、「看護職」「介護職」という記載にしてみてもどうか。
- ・経験年数について、現施設以外の経験年数やターミナルケアの経験についても確認できる内容が良いのではないかと。
- ・対象の率直な意識を聞く方法として、自由記載の項目を設けてはどうか。

グループ5

- ・文献検索について、地域包括ケアというキーワードでは文献数が少なくなると思われるため、もう少し具体的なキーワードを入れることで近い先行研究に行き当たると思われる。
- ・退院支援の指導内容の統一ということだが、目的が指導内容なのか指導項目なのかということでも情報収集や分析が変わってくると考えられ、また、在宅の環境によっても手法が変化するため、どういった指導をしたいのかを十分に練る必要がある。
- ・インタビューは本当にしたかったこととずれないように、インタビューガイドの作成が必要である。
- ・インタビュー内容については、対象者がどのように感じたかなどの思いを聞くとよい。
- ・外部から提供を受けている冊子（〇〇手帳）を使用する際は、倫理的配慮に利益相反がないことを記載するとよい。

グループ6

- ・研究テーマの対象者と、質問紙調査をする対象者が合っていないので再検討が必要である。テーマに使う言葉の定義をしっかりとしておく必要がある。
- ・患者と家族の意識調査となっているが、動機と問題提起の中には患者本人のことしか書かれていないので、家族のことも先行研究で調べてみる、もしくはどちらかに絞り込んで詳しく調べてみるのはどうか。
- ・質問紙の内容も研究計画書に記載すること、また回収方法を検討した方がよい。
- ・医学しか解決しにくい問題は看護研究には向かないが、どのような看護をすれば解決するのかを考え、まずは事例研究をしてみてもよい。

グループ7

- ・研究対象となる項目（人工呼吸器の装着、皮膚トラブルの有無）など、定められるものは事前に決めて、年齢も「75歳以上の後期高齢者」などと範囲を決めておく必要がある。
- ・分析するためにはデータの数値化が必要となるため、病院独自で作成されている尺度であれば文言を数字に置き換えてみてはどうか。
- ・評価する起点も、例えば入院直後と2週間後、検査データなら入院3日目と7日目などと定める必要がある。
- ・すでに倫理審査を終え着手直前の段階であったため、再度倫理審査に出すか、この計画書に書かれている内容をどのように活用するのかを考える必要があり、状況によっては継続相談も必要と考える。

グループ8

- ・受け持ち看護師の業務マニュアルの評価だけでは業務改善になってしまうので、マニュアル以外でしていること、看護として必要だと思うことを挙げる必要がある。
- ・方法に上がっているグラウンデッドセオリーは、理論開発に使われる手法なので、今回は質的記述的研究とし、インタビュー内容が多いので、核となる質問内容は2～3個とし、状況に応じて追加した聞きたいことを聞いていくとよい。

3) ビギナーコース（第1回～第4回）について

(1) 第1～4回の講座の各回の満足度

第1回から第4回の各回における受講生の満足度は、どの講座においても80～90%が満足していた（表11）。

表11 ビギナーコース各回の満足

| 回 | Mean | ± | S.D |
|-----------|------|---|------|
| 第1回(n=23) | 4.50 | ± | 0.51 |
| 第2回(n=24) | 4.50 | ± | 0.51 |
| 第3回(n=23) | 4.40 | ± | 0.50 |
| 第4回(n=21) | 4.20 | ± | 5.71 |

(2) ビギナーコース全体の満足度

キャリアアップ講座全体に対する満足度は、100%と高かった（表12）。

ビギナーコース講座全体に対する意見や感想については、以下の報告があった（表13）。

表12 ビギナーコース全体の満足
n=23

| 質問項目 | Mean | ± | S.D |
|------|------|---|------|
| 満足度 | 4.20 | ± | 5.88 |

表13 講座全体の感想・意見

1. 研究への取り組み・理解

- ・研究の基礎を学ぶことができ、実際の研究についても相談できてよかった。
- ・少し難しいと思うこともあったが、研究の流れが分かってよかった。
- ・講義だけでなく、実技や意見交換もあったのでわかりやすかった。
- ・難しく一度では理解できないところもあったが、一通り学んで看護研究が何たるかを知ることができた。他にも機会があれば勉強したいと思った。
- ・4回を通してとても勉強になった。本当にわからないことが多かったので、研修を無駄にせず伝達していったなと思う。
- ・研究が完成したら見て頂きたいと思う。
- ・今回学んだ基礎の学びを院内のスタッフにも指導し、病院全体のレベルアップを目指したい

2. 開催時期・間隔

- ・研究開始前に参加すると、とても分かりやすかった。特に個別相談は時期的に、看護研究は進めてしまっているので、指導内容は勉強になったが、変更が活かせられないので残念だと思った。可能なら年度始まりに受講し、研究（現場）と同時進行できればよかったなと思った。
- ・もう少し早い時期に進めたかったです。
- ・4カ月にわたっての講座だったので、一つ一つ整理しながら次の内容を学習出来て良かった。
- ・月に1回のペースで良かった。

3. 受講環境

- ・丁寧な案内や、お茶、お菓子などの心遣いが嬉しかった。快適に過ごすことができた。

2. アドバンスコースについて

アドバンスコースにおいて受講者の自己評価アンケートを実施した。

アドバンスコースの受講者は、募集人数 15 人に対し、受講登録は 10 人で、アンケート回収数は 10 人（回収率 100%、有効回答率 80%）であった。それぞれの質問項目に対し、そう思わない 1 点～そう思う 5 点の 5 件法で回答を求めた。

1) 基本属性（表 13）

年齢層は、前年度同様に 40 歳台が最も多く、平均経験年数は 19.0 ± 7.9 年、所属施設は病院が 93.8% を占めている。また、職種も看護師がほとんどであり、病院での研究活動を行うために受講していた。

表 13 アドバンスコース受講者の属性

| n=8 | | |
|--------|----|-------|
| 個人の属性 | 人数 | 割合(%) |
| 性別 | | |
| 男性 | 1 | 12.5 |
| 女性 | 7 | 87.5 |
| 年齢 | | |
| 20歳代 | 0 | 0.0 |
| 30歳代 | 2 | 25.0 |
| 40歳代 | 4 | 50.0 |
| 50歳代以上 | 2 | 25.0 |
| 職種 | | |
| 看護師 | 7 | 87.5 |
| 保健師 | 0 | 0.0 |
| 助産師 | 1 | 12.5 |
| その他 | 0 | 0.0 |
| 勤務先 | | |
| 病院 | 8 | 100.0 |
| 老人保健施設 | 0 | 0.0 |
| 保健所 | 0 | 0.0 |
| その他 | 0 | 0.0 |

2) アドバンスコース講義の内容について

アドバンスコースは、ビギナーコースと同様に、学部教員がサポートを行った。また担当講師は Excel や SPSS の習熟度に応じた資料準備を行った。講義内容の理解に関しては、約 60～70% が理解したと回答した。講義資料に関しては、70～80% が適切であると回答した（表 14）。

アドバンスコースに対する意見や感想については、以下の報告があった（表 15）。

表 14 アドバンスコース アンケート結果

| n=8 | | | |
|---------|--------|------|--------|
| 講義内容 | 質問項目 | Mean | ± S.D |
| 統計解析の基礎 | 内容の理解 | 4.38 | ± 0.74 |
| | 満足度 | 4.75 | ± 0.46 |
| | 資料が適切か | 4.75 | ± 0.46 |
| 統計解析の演習 | 内容の理解 | 4.30 | ± 0.83 |
| | 満足度 | 4.30 | ± 0.76 |
| | 資料が適切か | 4.60 | ± 0.46 |
| SPSS | 内容の理解 | 4.00 | ± 0.83 |
| | 満足度 | 4.30 | ± 0.76 |
| | 資料が適切か | 4.10 | ± 0.46 |

表 15 講座全体の意見・感想

1. 学び

- ・検定の種類や使い方について理解することができた。SPSS も使ってみたい。
- ・看護研究で分析をしていく時にどの検定を使えばよいか，結果をどう示したらよいかを考える方法が学べた。
- ・今後につながる学びができた。

2. その他

- ・難しいけれどわかりやすく説明してもらい，とても楽しかった。忘れないように，学習を深めてみたいと思った。
- ・具体的なデータを使用して検定を行っていたのでわかりやすく，午前中に習った語句と関連して説明して下さったのでよかった。
- ・今日参加できなかったメンバーにも報告できたらいいと思った。
- ・独学では難しい内容をわかりやすく説明してもらえた。

IV. 卒業生研修会

1. 2020年 卒業生研修

2020年3月19日(木)に聖泉大学看護学部第1期生から第5期生を対象とした卒業生研修会と懇親会を企画し開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の発生により中止となった。

1) 開催予定のプログラム

| Aコース | Bコース | Cコース |
|---|--|---|
| 受付 9:30~9:50 | / | / |
| 【オリエンテーション】 センター長挨拶 | | |
| ＜看護研究とは＞ 10:00~10:50 講師：聖泉大学看護学部教授 木村 知子 | | |
| 休憩 | | |
| ＜研究計画書＞ 11:00~12:00 講師：聖泉大学看護学部准教授 中島 真由美 | | |
| 昼食 | 受付 12:30~13:00 | |
| ＜文献クリティーク＞ 13:30~15:00 講師：聖泉大学看護学部講師 桶河 華代 | ＜ブロック・ミュート できない人との 付き合い方＞ 13:30~15:00 講師：済生会滋賀県病院 精神看護専門看護師 木村 里美 | ＜在宅看取りと グリーフケア＞ 13:30~15:00 講師：聖泉大学看護学部教授 磯邊 厚子 |
| 15:00~15:10 休憩・移動 | | |
| 【懇親会】 15:10~16:00 | | |

資料

- ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターの概要
- ◆ 聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程
- ◆ 個人情報の使用に係る承諾について
- ◆ キャリアアップ講座受講者の情報システム利用について
- ◆ 共同研究のお誘い

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンターの概要

■ 看護キャリアアップセンター設置の基本的な考え方

看護キャリアアップセンター(以下センターとする)の設置主旨は、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、あるいは保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場となって、広く皆様の活動に役立てられることにある。

■ センターの目的と機能

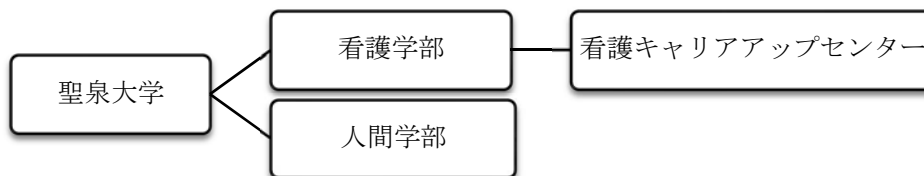
センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また保健・医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とし、その目的を達成するために次の事業を行うことによりその機能を果たすものとする。

- (1) 看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2) 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3) 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4) 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5) 当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6) その他、センターの目的達成のために必要な事業

■ 設置・運営

聖泉大学看護学部看護学科

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地 ホームページ <http://www.seisen.ac.jp>



聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、聖泉大学学則第3条の3に基づき、看護学部附属看護キャリアアップセンター（以下「センター」という。）の構成及び運営、その他必要な事項について定める。

(目的)

第2条 センターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、その目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした講座の開設
- (2) 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- (3) 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- (4) 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- (5) 当大学卒業生の研究、講座のサポート
- (6) その他、センターの目的達成のために必要な事業

(管理)

第4条 センターに、センター長を置く。

- 2 センター長は、センターを代表し、その事業及び管理運営の全般を統括する。
- 3 センター長は、学部長の推薦により学長が任命する。
- 4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、前任者の任期途中で就任した場合は、その残任期間とする。
- 5 センターには、必要に応じて客員研究員を置くことができる。

(委員会)

第5条 センターに、委員会を置く。

- 2 センターは、次に掲げる者をもって組織する。
 - (1) センター長（委員長）1名
 - (2) 学部教員 若干名
 - (3) その他、学部長が必要と認めた者
- 3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、その残任期間とする。
- 4 委員会は、次の事項について審議する。
 - (1) センターの運営に関する事項
 - (2) センターの事業に関する事項
 - (3) センターの予算に関する事項
 - (4) センターの研究活動に関する事項
 - (5) その他、センターの目的を達成するために必要な事項

5 委員長は、必要に応じ、委員以外の者の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(センターの会計)

第6条 センターの会計は、本大学からの支出金および学外からの会費収入、援助金等により賄う。

(起案手続)

第7条 センターの行う事業その他重要な事項は、教授会に提案し、報告しなければならない。

(事務)

第8条 センターの事務は、事務部長が指名する所轄部署において行う。

(規程の改廃等)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

付則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

資料

令和 年 月 日

キャリアアップ講座
受講者様

聖泉大学看護学部
附属看護キャリアアップセンター長
流 郷 千 幸

個人情報の使用に係る承諾について

聖泉大学看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的にキャリアアップ講座（看護研究）を開講しております。その活動・成果は、聖泉大学のホームページや看護キャリアアップセンター活動報告書を通じて、滋賀県の病院等の関係施設に発信しております。

つきましては、講座風景写真、及び終了後アンケート調査結果等、個人情報に係る内容につきまして、使用のご承諾をいただきますよう、お願いいたします。

記

1. 講座終了後のアンケート調査（無記名）につきましては、回収をもって同意を得たとさせていただきますが、今後に活かすためにご協力ください。
2. 講座風景写真等の使用については、聖泉大学のホームページや看護キャリアアップセンター活動報告書に関するものみに使用します。
3. 写真撮影時に除外の場合は申し出ください。また、ホームページを通じて掲載された肖像等について、削除依頼があった場合は速やかに削除します。

個人情報の使用に係る承諾書

キャリアアップ講座（看護研究）風景の写真等、聖泉大学看護キャリアアップセンター活動の広報目的で使用されることを承諾します。

令和 年 月 日

聖泉大学看護キャリアアップセンター長 様

氏 名 _____

資料

キャリアアップ講座受講者 情報システム利用について

1. 利用資格：キャリアアップ講座受講生（聖泉大学情報センター規程第4・5条）
2. 利用期間：講座申込年度開講初日～当該年度末
3. ユーザー登録とID・パスワードの提供
 - 1) ユーザー登録は、本人が所定の用紙に必要事項を記入し申請する。
 - 2) 情報センターから申請者に対しID・パスワードを発行する。
 - 3) 個人のID・パスワードは、第2回講座からパソコンのログインに使用する。
4. 情報センター利用手続き
 - 1) 情報センター事務室にある「コンピュータ室利用申込」用紙に必要事項を記入する。
 - 2) 受講証明書を情報センターに預ける。それと引き換えに、許可証を受け取る。
(受講証明書を所持しない場合は、原則利用は認められない。)
 - 3) 許可証に記載された番号のコンピュータを使用する。
 - 4) 利用終了後、情報センター事務室において1)で記入した用紙に終了時刻を記入する。
 - 5) 許可証と引き換えに受講証明書を返却してもらう。
5. 情報センターコンピューター室の利用
 - 1) 第1コンピューター室のみ利用を許可する。
 - 2) 開館日程は提示される。
 - 3) 利用できない日
 - a) 土日祝日
 - b) 学部定期試験前1週間前から学部定期試験期間中
 - c) 水曜日 12:00-14:30（利用状況によって、変更される可能性あり）
 - d) システムメンテナンス実施期間中（夏期休暇期間中を予定）

*なお情報センターの開館日程については、キャリアアップ講座開講時および看護キャリアアップセンターホームページに情報提供する。
 - 4) 利用目的は、文献検索ならびに関連作業のみとする。
 - 5) Webは閲覧可能であるが、一部のページ、動画サイトは、コンテンツフィルターによる制限がかかるため閲覧ができない。
 - 6) メール利用はできない。
 - 7) 取得情報の保存に当たっては、個人で保存すること。
6. 使用検索システム
医学中央雑誌、CINAHLについて利用可能であるが、利用数に制限がある。
7. プリンター利用について
 - 1) ポイント購入制
20ポイント：A4白黒印刷20枚＝100円
100ポイント：A4白黒印刷100枚＝400円

以上

共同研究のお誘い

■共同研究をしませんか

看護キャリアアップセンターでは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場として、また医療・福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的として、地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究を積極的に行っております。

共同研究の実施形態として、本学教員と共同または分担して研究するほか、医療施設での研究の指導・サポートも可能です。

■共同研究のすすめかた

- ・研究テーマは決まっているが、適当な教員がわからない場合

お問い合わせください。担当者がサポートいたします。

- ・共同研究をしたい教員が決まっている場合

当該教員におつなぎいたします。研究内容・期間・研究計画等をお知らせください。

■本学教員研究内容紹介

自分のしたい研究テーマを推進する教員が不在の場合でも一度ご相談ください。可能な限り対応させていただきます。

■お申込み

下記連絡先へお問い合わせください。

■受け入れについて

申込みいただいた内容を確認しまして、共同研究の受け入れを決定いたします。

■その他

共同研究を行う拠点として本学併設の研究施設（図書館・情報センターほか）などがご利用いただけます（研究推進目的に限る）。

■申込み及び問い合わせ先

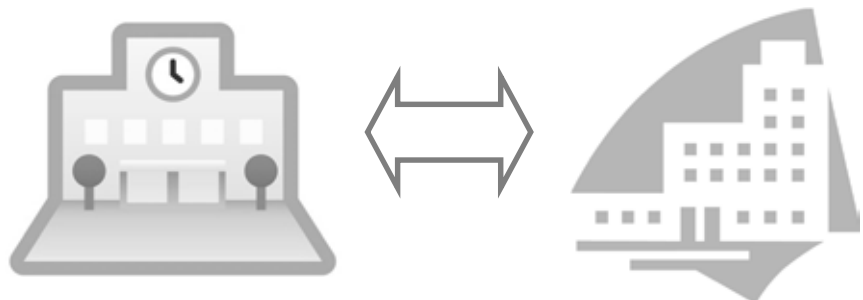
〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

聖泉大学 看護学部附属 看護キャリアアップセンター

Tel : 0749-47-8400 (代表)

Fax : 0749-43-2411

E-mail : kango-career@seisen.ac.jp



聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター キャリアアップ講座 共同研究申込書

| | | |
|---------------------|------------------|----------------------|
| 申し込日 | 平成 年 月 日 | |
| 申請者名 | | |
| 申請者 所属施設名 | | |
| 連絡先 | 電話 | |
| | FAX | |
| | E-mail | |
| | その他 | |
| 研究テーマ | 有 | テーマ(研究着手前・着手後) |
| | 無 その他 | |
| 研究概要 | 背景 目的 など | |
| 発表予定 | 有 | ・施設内 ・学会 ・雑誌投稿 |
| | 無 その他 | ・予定なし ・その他 |
| 共同研究を 希望する 教員 | あり・なし | |
| | 該当する領域または教員名 () | |
| 相談希望 日時 | | |

問い合わせ先
 聖泉大学 看護学部 附属看護キャリアアップセンター
 担当:井之口、森島、大村
 住所:滋賀県彦根市肥田町720番地
 TEL:0749-47-8400(代表)FAX:0749-43-2611(教務課)
 E-mail:kango-career@seisen.ac.jp

あとがき

聖泉大学看護学部附属キャリアアップセンターは、地域の医療、看護教育の発展と向上のための看護研究や講座を開催、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的に2011(平成23)年、看護学部開設と同時に設置され9年が経過しました。

当センターの大きな事業は、看護研究をテーマとした【キャリアアップ講座】と卒業生のサポートを目的とした【卒業生研修】です。

【キャリアアップ講座】では、看護研究の進め方、文献検索、研究方法、データ分析、まとめ方と発表、研究相談まで4回(4日間)開講し、全て受講した方に修了証を交付しております。2011(平成23)～2019(令和1)年度の9年間で修了者は220名に達しました。加えて2014(平成26)年度からは、研究の基礎的学習を終えている方を対象に、統計解析を中心とした講座を開講し、今年度までに69名が受講されました。このように滋賀県内の多くの看護職等の方々が【キャリアアップ講座】を受講していただきましたことに感謝申し上げます。

2019年度から、講座の名称をビギナーコース、アドバンスコースに変更し、皆様からいただいたご意見をもとに少人数制の講座を徹底し、サポートの充実を図りました。その結果、参加者アンケートでは、サポートが充実しており看護研究に取り組む意欲が湧いたなどの意見が多数あり好評を得ていますことを喜んでおります。

また、本学部卒業生は、今年度6期生を輩出し428名となりました。その多くは滋賀県内に就職しており、各施設でお世話になっていることと存じます。卒業生のサポートを目的とした【卒業生研修】は、2015(平成27年)に開始し、今年度で5年目を迎える予定でした。当研修会は卒業生の成長を実感でき、教員も嬉しく、また感動をもらっていましたが今年度はコロナウィルス(COVID-19)の流行拡大防止のため、残念ながら開催できませんでした。来年度は是非また、成長した卒業生に出会えることを楽しみにしております。

2020年度も当センターが看護職の方々や卒業生にとって身近な存在であるよう努力していきたいと思っております。

今後とも、当センターへの皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2020年3月

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター長
流郷千幸

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター活動報告

2019 年度

Vol. 8

発行日

2020 年 6 月 1 日

発行者

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター委員会

委員長 流 郷 千 幸
鈴木 美 佐
井之口 文 月
中 村 美由紀
森 島 加奈子
馬 場 好 恵
川 橋 けい子

発行所

聖泉大学看護学部附属看護キャリアアップセンター

Email:kango-career@seisen.ac.jp

TEL. 0749-47-8400

印刷所

ひがし印刷